

平成 30 年度老人保健事業推進費等補助金事業(老人保健健康増進等事業)  
「医療提供施設である介護保険施設における医薬品の安全使用等に関する調査研究事業」

医療提供を目的とした  
介護保険施設で勤務する薬剤師のための研修カリキュラム

平成 31 年 3 月  
一般社団法人 日本病院薬剤師会

# 医療提供を目的とした介護保険施設で勤務する薬剤師のための研修カリキュラム

## 目次

1.	はじめに	1
2.	研修カリキュラム利用上の留意点について	2
3.	研修カリキュラム	4
A.	社会保険制度について	4
A-1	社会保障制度	4
A-2	医療保険制度	4
A-3	介護保険制度	4
B.	高齢者保健医療の基礎知識	5
B-1	高齢者の身体機能の変化と特徴	5
B-2	介護保険施設入所者に多くみられる疾病と薬物療法	6
B-3	介護保険施設入所者に対する処置	10
B-4	高齢者の安全な薬物療法	10
B-5	バイタルサインと検査	11
B-6	介護事故防止対策	11
B-7	栄養管理	12
B-8	感染症の予防	13
B-9	急変時の対応	13
B-10	ターミナルケア	14
C.	介護保険施設における薬剤師の役割	14
C-1	医薬品の安全管理	14
C-2	医薬品情報の収集・管理・周知	16
C-3	入所から退所、退所後を見据えた薬物療法の関わり	16
C-4	副作用の評価・報告と副作用被害救済制度	17
C-5	入所者・家族等からの相談への対応	17
D.	多職種連携・協働	18
D-1	多職種の役割を知る	18
D-2	多職種協働による薬物治療管理	18
D-3	地域における連携	18
4.	参考資料・ガイドライン等	19

## 1. はじめに

この度、日本病院薬剤師会では、「医薬品の安全使用のための業務手順書作成マニュアル(医療提供を目的とした介護保険施設版)」を作成するとともに、「医療提供を目的とした介護保険施設で勤務する薬剤師のための研修カリキュラム(以下、研修カリキュラム)」を作成いたしました。本研修カリキュラムは、医療提供を目的とした介護保険施設に勤務する薬剤師の資質向上を図ると共に、関連職種と協働し施設の医療安全並びに要介護状態にある利用者の医薬品の安全使用を推進することを目的として、薬剤師が基本的に身につけるべき知識と技術を体系的にとりまとめたものです。

介護保険施設のなかでも、介護老人保健施設と介護医療院は、医療提供施設に位置付けられております。介護老人保健施設は、医療機関と特別養護老人ホームの中間施設として1988年4月にスタートし、1997年の介護保険法成立時には老人保健法から移行、「要介護者に対し、施設サービス計画に基づいて、看護、医学的管理の下における介護及び機能訓練その他必要な医療ならびに日常生活上の世話をを行うことを目的とする施設」と介護保険法で定義されました。超高齢社会に備えて在宅復帰支援機能・在宅療養支援機能強化の流れが進行する中、2017年には地域包括ケアシステムを進化、強化するため介護保険法が改正され、在宅復帰・在宅療養支援のための地域拠点となることが明示されました。このように、介護老人保健施設には、医療と介護の連携、多職種協働による地域支援の整備への貢献に大きな期待が寄せられているところでもあります。

また、2018年度より新設された介護医療院は「要介護者であって、主として長期にわたり療養が必要である者に対し、施設サービス計画に基づいて、療養上の管理、看護、医学的管理の下における介護及び機能訓練その他必要な医療並びに日常生活上の世話をを行うことを目的とする施設」と定義されています。今後、増加が見込まれる慢性期の医療・介護ニーズへの対応のため、「日常的な医学管理が必要な要介護者の受入れ」や「看取り・ターミナル」等の機能と、「生活施設」としての機能を兼ね備え、医療の必要な要介護高齢者の長期療養・生活施設であることが位置づけられています。

こうした介護保険施設の入所者は、複数の疾患を有し、病態・症状は比較的安定期にある要介護者であるため、医療サービスは薬物治療・リハビリテーションが中心となります。薬物療法は、前医からの処方内容が継続されることが多く、ハイリスク薬使用時の情報共有の不足や多剤併用、代替薬への切り替え、採用薬の種類など、薬剤師の関与が必要となる様々な課題が存在します。

利用者の安全な薬物療法を継続し、医薬品の安全管理を実践するためには、介護保険施設に勤務する薬剤師が、関係する多職種と連携、協働して、適切かつ有効な薬学的介入を図る必要があります。そのためには、介護保険制度等を含め高齢者が置かれている社会的背景や地域における保険、医療、福祉制度を理解するとともに、施設における医薬品安全管理に係る手順書等を整備し、適切かつ有効な薬学的介入を行うための臨床能力が不可欠です。

日本病院薬剤師会では、病院・診療所等に勤務する薬剤師とともに介護保険施設に勤務する薬剤師を正会員とし、医療、介護分野における医薬品の安全使用に貢献し、少子高齢社会を支える薬剤師の育成に努めています。この度、作成に至りました本研修カリキュラムを利活用し、医師、看護職、介護職、相談員、介護支援専門員等の関係職種との連携のもと、医療提供を目的とした介護保険施設に限らず多くの介護施設における医療安全、医薬品安全管理の質的向上ならびに要介護状態にある利用者の医薬品の安全使用に役立てて戴ければ幸甚に存じます。

## 2. 研修カリキュラム利用上の留意点について

### 【位置づけ】

本研修カリキュラムは、医療提供を目的とした介護保険施設で勤務する薬剤師が特に知っておくべき事項として研修、あるいは自己研鑽を行う上で参考となる内容を提示したものではありませんが、医療提供を目的とした介護保険施設に限らず多くの介護施設における医療安全、医薬品安全管理の質的向上ならびに要介護状態にある利用者の医薬品の安全使用に役立てて戴ければ幸甚に存じます。

### 【学習目標】

A～D 項目の目的を達成するために、研修あるいは自己研鑽により習得するべき知識、技能について**学習目標**として記載した。

### 【A～D の項目について】

#### A項目

社会保障制度について理解し、高齢社会における介護保険施設の役割を理解することを目的とした内容である。高齢者が置かれている状況を知り、高齢者を支える様々な仕組みと規制、地域における保険、医療、福祉などに対する理解を深める。

#### B項目

高齢者保健医療の基礎知識を身につけ、介護保険施設において適切かつ有効な薬学的介入を行うための臨床能力を習得することを目的とした内容である。介護保険施設において特に多く見られる疾病の病態と、薬物療法について知識を深めるとともに、疾病に対して使用される医薬品とその副作用、注意すべき点、副作用の早期発見のために有用である技能を確認する。また医療安全、感染予防、栄養管理等について薬剤師の視点で介入し、施設の運営に貢献できることを目指す。さらに人生の最期まで尊厳ある生活を支援するために必要な知識として、ターミナルケアにおける薬剤師の役割や適切な姿勢を学ぶ。

#### C 項目

介護保険施設において勤務する薬剤師の役割を知り、利用者の安全な薬物療法の継続に貢献するための業務を知ることを目的とした内容である。医薬品の安全管理、医薬品情報の収集・管理・周知、利用者情報の収集、入所中の介入、他施設への情報提供等について理解し、施設勤務の薬剤師が医薬品の安全使用に果たす役割について学ぶ。

#### D 項目

他職種との連携、地域との連携の中で薬剤師が果たすべき役割と求められる業務について知ることを目的とした内容である。他職種の職能ならびに地域における様々な連携システムを理解し、多職種協働により介護保険施設さらには地域における医療安全、医薬品安全管理の質的向上と医薬品適正使用のために薬剤師が果たす役割を学ぶ。

A～D の各項目に記載の学習目標の内容は、それぞれの特性により関連性の高い項目に関して重複して記載している部分があるため合わせて学習していただきたい。(例:呼吸器の疾病と感染症など)

### 3. 研修カリキュラム

#### A. 社会保険制度について

##### A-1 社会保障制度

###### A-1-1 日本の社会保障制度の概念と主な制度

###### 学習目標

- 社会保障制度の概念と範囲について習得する。
- 社会保険の種類別に対象や給付サービスについて習得する。

##### A-2 医療保険制度

###### A-2-1 医療保険制度について

###### 学習目標

- 医療保険の基本的な仕組みについて習得する。
- 国民皆保険制度について習得する。
- 医療費の患者負担について習得する。
- 高齢者医療制度について習得する。

##### A-3 介護保険制度

###### A-3-1 介護保険制度導入の背景

###### 学習目標

- 高齢化の進展と高齢者を取り巻く状況について習得する。

###### A-3-2 介護保険制度について

###### 学習目標

- 介護保険の目的について習得する。
- 介護保険の基本的な仕組みについて習得する。
- 保険給付を行ううえで配慮すべき事項について習得する。
- 要介護・要支援認定の区分について習得する。
- 介護保険法の定める特定疾病について習得する。
- 介護保険サービスの体系について習得する。
- 介護保険制度の現状と課題について習得する。

###### A-3-3 介護保険施設について

###### 学習目標

- 施設サービス(介護老人保健施設、介護医療院、介護老人福祉施設)の位置づけについて習得する。
- 居宅・介護予防サービスについて習得する。
- 施設サービス計画書について習得する。

- 介護老人保健施設の特徴や対象者、提供されるサービス、人員基準について習得する。
- 介護老人保健施設の主な介護報酬加算について習得する。
- 介護医療院の特徴や対象者、提供されるサービス、人員基準について習得する。

## B. 高齢者保健医療の基礎知識

### B-1 高齢者の身体機能の変化と特徴

#### B-1-1 高齢者の身体機能の変化

##### 学習目標

- 老年症候群について習得する。
- 老年症候群には生理的老化と病的老化があることを理解する。
- 生理的老化の一般的変化について理解する(予備力(ストレス耐性)、恒常性維持機能、防御機能、回復力、適応力の低下)

#### B-1-2 せん妄の主な症状、原因、対応

##### 学習目標

- せん妄の症状を習得する。
- せん妄の原因を習得する。
- 高齢者特有のせん妄の原因も習得する。
- せん妄が起こった場合の対応について(薬物療法以外の方法も含めて)習得する。
- せん妄が起こらないように予防する方法を習得する。

#### B-1-3 廃用症候群の主な症状、予防とケア

##### 学習目標

- 廃用症候群の種類や原因について習得する。
- 廃用症候群のケアと予防について習得する。

#### B-1-4 フレイル・サルコペニア

##### 学習目標

- フレイルの原因と症状、その早期発見方法を習得する。
- フレイルのケアと予防について習得する。
- サルコペニアの原因と症状、その早期発見方法を習得する。
- サルコペニアのケアと予防について習得する。

#### B-1-5 障害高齢者の日常生活自立度

##### 学習目標

- 障害日常生活自立度について習得する。
- 障害日常生活自立度で評価された患者の状況と必要とされる薬学的関与について習得する。

## B-1-6 認知症高齢者の日常生活自立度

### 学習目標

- 認知症高齢者の日常生活自立度について習得する。
- 認知症高齢者の日常生活自立度で評価された患者の状況と必要とされる薬学的関与について習得する。

## B-1-7 自立生活の指標 ADL

### 学習目標

- 日常生活動作 ADL について習得する。
- 評価された日常生活動作について、実際の患者の状況と必要とされる薬学的関与について習得する。

## B-2 介護保険施設入所者に多くみられる疾病と薬物療法

### B-2-1 認知症の病態と薬物療法

#### 学習目標

- 認知症の定義と特徴について習得する。
- 認知症の診断・鑑別診断について習得する。
- 認知症の主な原因疾患について習得する。
- 認知症の発症予防と対策について習得する。
- 抗認知症薬の特徴とリスクについて習得する。
- 抗認知症薬の薬物動態について習得する。
- 認知機能病期別の治療薬剤の選択について習得する。
- 認知症の周辺症状(BPSD)について習得する。
- BPSD に使用する薬剤の特徴とリスクについて習得する。
- 認知症様症状を引き起こす薬剤について習得する。
- 認知症治療時における服薬指導・支援について習得する。
- 認知症の薬物療法以外の治療法について習得する。

### B-2-2 高齢者における高血圧症の病態と薬物療法

#### 学習目標

- 高齢者における高血圧症の定義と特徴について習得する。
- 高齢者における高血圧症の診断について習得する。
- 降圧目標の設定と達成について習得する。
- 高齢者における高血圧症の発症予防と対策について習得する。
- 高齢者における高血圧症の合併症とその対策について習得する。
- 降圧治療の影響について習得する。
- 降圧薬の特徴とリスクについて習得する。
- 降圧薬の薬物動態について習得する。

- 降圧薬の選択・調節について習得する。
- 高齢者における高血圧症治療時における服薬指導・支援について習得する。

#### B-2-3 脳卒中の病態と薬物療法

##### 学習目標

- 脳卒中各疾患の特徴について習得する。
- 脳卒中各疾患の初期症状について習得する。
- 脳卒中各疾患の発症予防と対策について習得する。
- 脳卒中合併症とその対策について習得する。
- 脳卒中各疾患の特徴について習得する。
- 脳卒中各疾患の病態について習得する。
- 脳卒中治療薬の特徴とリスクについて習得する。
- 脳卒中治療薬の薬物動態について習得する。
- 脳卒中治療時における服薬指導・支援について習得する。
- 脳卒中薬物療法以外の治療法について習得する。
- 脳卒中緊急的発症時の対応について習得する。

#### B-2-4 心臓病の病態と薬物療法

##### 学習目標

- 心臓病各疾患の特徴について習得する。
- 心臓病各疾患の初期症状について習得する。
- 心臓病各疾患の発症予防と対策について習得する。
- 心臓病合併症とその対策について習得する。
- 心臓病各疾患の特徴について習得する。
- 心臓病治療薬の特徴とリスクについて習得する。
- 心臓病治療薬の薬物動態について習得する。
- 心臓病治療時における服薬指導・支援について習得する。
- 心臓病の薬物療法以外の治療法について習得する。
- 心臓病の緊急的発症時の対応について習得する。

#### B-2-5 外傷の病態と薬物療法

##### 学習目標

- 外傷の疫学について習得する。
- 外傷の代表的な発症機序について習得する。
- 外傷の特殊性について習得する。
- 外傷の発症予防と対策について習得する。
- 外傷の起因となる薬物の特徴とリスクについて習得する。
- 外傷の起因となる薬物の薬物動態について習得する。

- 外傷後に影響する薬物の特徴とリスクについて習得する。
- 外傷後に影響する薬物の薬物動態について習得する。
- 外傷治療時における服薬指導・支援について習得する。
- 外傷の緊急時の対応について習得する。

#### B-2-6 筋骨格系の疾病の病態と薬物療法

##### 学習目標

- 筋骨格系の特徴について習得する。
- 筋骨格系の老化について習得する。
- 筋骨格系各疾患の特徴について習得する。
- 筋骨格系各疾患の発症予防と対策について習得する。
- 筋骨格系各疾患における治療薬の特徴とリスクについて習得する。
- 筋骨格系各疾患における治療薬の薬物動態について習得する。
- 筋骨格系各疾患治療時における服薬指導・支援について習得する。
- 筋骨格系各疾患の薬物療法以外の治療法について習得する。

#### B-2-7 糖尿病の病態と薬物療法

##### 学習目標

- 糖尿病の定義と特徴について習得する。
- 糖尿病の発症予防と対策について習得する。
- 糖尿病合併症とその対策について習得する。
- 血糖コントロール目標の設定と達成について習得する。
- 糖尿病治療薬の特徴とリスクについて習得する。
- 糖尿病治療薬の薬物動態について習得する。
- 糖尿病治療時における服薬指導・支援について習得する。
- 糖尿病の薬物療法以外の治療法について習得する。

#### B-2-8 胃腸・肝臓・胆嚢の疾病の病態と薬物療法

##### 学習目標

- 消化器疾患、肝疾患および胆道疾患の診断・治療について習得する。
- 消化器疾患、肝疾患および胆道疾患の検査に関する知識を習得する。
- 肝疾患が薬物代謝に及ぼす影響について習得する。
- 吸収過程における薬物相互作用について習得する。
- 薬物による肝障害について習得する。

#### B-2-9 呼吸器の疾病(肺炎・誤嚥性肺炎)の病態と薬物療法

##### 学習目標

- 市中肺炎, 院内肺炎, 医療ケア関連肺炎の分類による治療の知識を習得する。

- 肺炎治療薬の特徴とリスクについて習得する。
- 嚥下機能評価を習得する。
- 嚥下障害への対処について習得する。
- 嚥下機能を悪化させる薬剤, 予防効果を示す薬剤について習得する。
- 誤嚥の危険因子について習得する。

#### B-2-10 排便障害

##### 学習目標

- 排便障害の分類・診断について習得する。
- 排便障害の病態と対応を習得する。
- 高齢者における排便障害の要因について習得する。
- 便秘や下痢等を生じる薬剤の種類について習得する。
- 便秘や下痢等を生じる薬剤のメカニズムについて習得する。
- 便秘や下痢等の薬物療法について習得する。

#### B-2-11 排尿障害

##### 学習目標

- 頻尿・尿失禁の病態と対応を習得する。
- 高齢者で多い、全身的要因や環境要因等を習得する。
- 排尿障害の病態に基づいた、生活指導について習得する。
- 排尿障害の病態に基づいた、行動療法について習得する。
- 排尿障害の病態に基づいた、薬物療法について習得する。
- 排尿障害の病態に基づいた、外科的治療について習得する。
- 排尿障害を生じる薬剤の種類とそのメカニズムを習得する。

#### B-2-12 創・褥瘡

##### 学習目標

- 褥瘡の発生要因(病態・栄養・ADL・失禁等)および予防法について習得する。
- 褥瘡の評価について習得する。
- 褥瘡の治療について習得する。
- 褥瘡の治療薬の特徴とリスクについて習得する。
- 褥瘡の予防(除圧, 摩擦・ずれ力の回避, 入念な創傷ケア)について習得する。

#### B-2-13 睡眠障害

##### 学習目標

- 加齢による睡眠および概日リズムの変化について習得する。
- 不眠症の疫学について習得する。
- 不眠症の要因について習得する。

- 不眠症の治療における睡眠衛生指導について習得する。
- 不眠症の治療における薬物療法について習得する。
- 不眠症治療薬の特徴とリスクについて習得する。

### B-3 介護保険施設入所者に対する処置

#### B-3-1 介護保険施設入所者に対する処置

##### 学習目標

- 尿道バルーンカテーテルの適応と管理方法について習得する。
- 抑制の種類と概念について習得する(科学的抑制・物理的抑制、評価)。
- 経管栄養の種類と特徴について習得する。
- 経管栄養からの栄養注入法について習得する。
- 経管栄養からの薬剤投与方法について習得する。
- 簡易懸濁法について習得する。

### B-4 高齢者の安全な薬物療法

#### B-4-1 高齢者の服薬管理

##### 学習目標

- 服薬管理能力の評価について習得する。
- 服薬能力に応じた服薬支援について習得する。
- 服薬管理を考慮した支援ツールについて習得する。
- 拒薬の原因、またそれを考慮した剤形変更について習得する
- 介護者が管理しやすい与薬について習得する。

#### B-4-2 薬剤の主な副作用

##### 学習目標

- 高齢者の起こり易い副作用について習得する。
- 高齢者の病態を把握した副作用モニタリングについて習得する。
- 医師および他スタッフから収集する副作用情報手順について習得する。

#### B-4-3 ポリファーマシー

##### 学習目標

- ポリファーマシーの背景や問題点について習得する。
- 不適切な処方と有害事象との関係について習得する。
- 必要な薬剤を見極めるポイントを習得する。
- 薬剤の中止・変更に向けての処方提案を習得する。
- 減薬後の観察ポイントについて習得する。

## B-5 バイタルサインと検査

### B-5-1 体温・脈拍・血圧・呼吸・意識レベル

#### 学習目標

- 加齢による生体機能の一般的変化として予備力(ストレス耐性)、恒常性維持機能、防御機能、回復力、適応力が低下することを習得する。
- 老年性症候群について習得する。
- 高齢者と成人でのバイタルサインの違いについて習得する。
- (高齢者における)各疾患での診断・治療、検査値について習得する。

### B-5-2 主な検査項目と異常所見でみられる病態

#### 学習目標

- 一般的検査値を習得する。
- 腎機能に応じた薬剤投与量を習得する。
- 異常所見とは何か、またその病態について習得する。

## B-6 介護事故防止対策

### B-6-1 介護事故の特性

#### 学習目標

- 介護のリスクマネジメントについて習得する。
- 介護事故の種類とそこに至る経緯について習得する。
- 介護事故を回避するための工夫や策について習得する。

### B-6-2 高齢者の転倒・転落

#### 学習目標

- 転倒・転落する状況把握について習得する。
- 転倒・転落によるリスクと対処方法を習得する。
- 転倒・転落を回避するための工夫や策について習得する。

### B-6-3 誤嚥・誤飲

#### 学習目標

- 摂食・嚥下機能の人体的メカニズムについて習得する。
- 誤嚥・誤飲の原因について習得する。
- 誤嚥・誤飲によるリスクと対処方法を習得する。
- 誤嚥・誤飲しないような工夫や策について習得する。

### B-6-4 誤薬

#### 学習目標

- 誤薬の原因について習得する。

- 誤薬したことによるリスクと対処方法を習得する。
- 誤薬しないような工夫や策について習得する。

#### B-6-5 介護事故防止のための体制整備

##### 学習目標

- 事故防止マニュアル作成と周知について習得する。
- 事故防止マニュアルの周知徹底するための策について習得する。

#### B-7 栄養管理

##### B-7-1 高齢者の摂食・嚥下機能

##### 学習目標

- 摂食・嚥下機能の人体的メカニズムについて習得する。
- 健康成人と高齢者の摂食・嚥下機能の違いについて習得する。
- 摂食・嚥下機能障害の原因について習得する。
- 摂食・嚥下機能障害による疾患を習得する。
- 上手な摂食・嚥下機能を促す工夫や策について習得する。

##### B-7-2 経管栄養

##### 学習目標

- 経管栄養とは何かについて習得する。
- 経管栄養に用いられる材料の特徴と方法について習得する。
- 経管栄養のメリット・デメリット(感染症等)について習得する。
- 経管栄養剤の種類と特徴について習得する。

##### B-7-3 経腸栄養

##### 学習目標

- 経腸栄養とは何かについて習得する。
- 経腸栄養に用いられる材料の特徴と方法について習得する。
- 経腸栄養のメリット・デメリット(感染症等)について習得する。
- 経腸栄養剤の種類と特徴について習得する。

##### B-7-4 静脈栄養

##### 学習目標

- 静脈栄養とは何かについて習得する。
- 静脈栄養に用いられる医療材料の特徴とルートについて習得する。
- 静脈栄養のメリット・デメリット(感染症等)について習得する。
- 静脈栄養に用いられる医薬品の種類と特徴について習得する。

## B-7-5 中心静脈栄養

### 学習目標

- 中心静脈栄養とは何かについて習得する。
- 中心静脈栄養に用いられる医療材料の特徴とルートについて習得する。
- 中心静脈栄養のメリット・デメリット(感染症等)について習得する。
- 中心静脈栄養に用いられる医薬品の種類と特徴について習得する。

## B-8 感染症の予防

### B-8-1 標準予防策と感染経路別予防策

#### 学習目標

- スタンダードプリコーション(標準予防策)について習得する。
- スタンダードプリコーションの手技について習得する。
- 感染経路別予防策を習得する。
- 消毒薬の特徴・使い方について習得する。
- 主な感染微生物について習得する。

### B-8-2 高齢者の代表的な感染症(尿路感染症、呼吸器感染、褥瘡感染症など)

#### 学習目標

- 尿路感染症について習得する。
- 呼吸器感染について習得する。
- 軟部組織感染症(蜂窩織炎・褥瘡を含む)について習得する。
- 結核について習得する。
- インフルエンザ感染症について習得する。
- ノロウイルス感染症について習得する。
- 疥癬感染症について習得する。

### B-8-3 高齢者に接種が推奨されるワクチン

#### 学習目標

- 肺炎球菌ワクチンについて習得する。
- インフルエンザワクチンについて習得する。
- 帯状疱疹ワクチンについて習得する。
- 水痘ワクチンについて習得する。

## B-9 急変時の対応

### 学習目標

- 急変時の初期対応について習得する。
- 病院と老健施設における救急医療の違いを習得する。
- 自動体外式除細動器(AED)について(手技を含む)習得する。

- 救急蘇生法について習得する。

## B-10 ターミナルケア

### B-10-1 ターミナルケア、アドバンス・ケア・プランニング(ACP・人生会議)における薬剤師の役割や適切な姿勢

#### 学習目標

- ターミナルケアについて習得する。
- アドバンス・ケア・プランニングについて習得する。
- リビング・ウィルについて習得する。

### B-10-2 トータルペイン

#### 学習目標

- 「痛み」の定義について習得する。
- トータルペイン(全人的痛み)について習得する。
- 身体的痛みについて習得する。
- 心理的痛みについて習得する。
- 社会的痛みについて習得する。
- スピリチュアル的痛みについて習得する。
- 緩和ケアについて習得する。
- 慢性疼痛の薬物治療について習得する。

### B-10-3 看取り介護

#### 学習目標

- 看取りの定義について習得する。
- 看取り介護について習得する。
- 看取り介護加算について習得する。
- ターミナルケアと看取り介護の違いについて習得する。

## C.介護保険施設における薬剤師の役割

### C-1 医薬品の安全管理

#### C-1-1 採用、購入、管理、供給、各部門での医薬品管理

#### 学習目標

##### 採用、購入

- 医薬品の採用において、医薬品の申請・採用・検討方法や手順について習得する。
- 医薬品の採用において、医薬品における有効性・安全性の文献および資料の検索方法について習得する。
- 医薬品の採用における同効薬の比較検討及び、既採用薬の整理について習得する。
- 採用医薬品の情報提供できる医薬品集等を作成する。

- 医薬品の購入において、基本的な手順について習得する。
- 医薬品の購入において、購入記録(伝票)の管理について習得する。
- 医薬品の購入において、複数体制で記録を管理する必要性について習得する。

#### 管理、供給

- 医薬品の管理において、適切な保管および品質の確認方法について習得する。
- 医薬品の管理において、医薬品の安全性を考慮した配置や充填方法について習得する。
- 医薬品の管理において、医薬品の期限管理について習得する。
- 医薬品の供給において、調剤及び適切な医薬品の取り揃え方法について習得する。
- 医薬品の供給において、調剤等の監査方法について習得する。
- 医薬品の供給時の情報提供について習得する。
- 医薬品の必要な情報が迅速に周知できる体制について習得する。

#### 各部門での医薬品管理

- 薬局の管理者不在時の入室管理について習得する。
- 各部署に配置する定数および在庫薬品を適切に管理する方法について習得する。
- 各部署で在庫する医薬品の定数等の配置と期限管理、安全性について習得する。

### C-1-2 ハイリスク薬の管理

#### 学習目標

- ハイリスク薬の薬効と使用上の注意について習得する。
- ハイリスク薬が処方された際の患者やスタッフへの薬剤情報提供について習得する。

### C-1-3 持参薬評価管理

#### 学習目標

- 持参薬鑑別書の様式・内容・手順について習得する。
- 持参薬にハイリスク薬がある場合の記載方法および情報提供について習得する。
- 持参薬に出血傾向のある薬剤がある場合の記載方法および情報提供について習得する。
- 持参薬に非採用薬がある場合において、類似薬提案などについて習得する。
- 患者・家族から服薬状況を確認後の薬剤の評価について習得する。
- クロルプロマジン換算(CP換算)について習得する。
- 持参薬評価後、今後の薬剤師プラン策定について習得する。

### C-1-4 与薬過誤対策

#### 学習目標

- 部署での与薬方法および手順について習得する。
- 与薬のインシデント・アクシデント(以下、インシデント)の定義について習得する。
- 与薬インシデント発生時に多職種協働で検討する方法について習得する。
- 自己管理時の飲み忘れや間違いの対応方法について習得する。

## C-2 医薬品情報の収集・管理・周知

### C-2-1 医薬品情報の収集・管理・周知

#### 学習目標

- 医薬品情報の収集・管理・提供に関する手順について習得できる。
- 適切に情報提供できる手順について習得する。
- 情報を管理し、検索できるシステムについて習得する。

### C-2-2 医薬品安全使用の確保に向けた教育活動

#### 学習目標

- 医薬品に関する事故防止対策における研修を開催すること。
- 事件事例の原因分析方法および対策プロセスについて習得する。
- 医薬品安全に関するマニュアルの策定・改訂を行うこと。
- 感染防止対策における知識を習得する。

## C-3 入所から退所、退所後を見据えた薬物療法の関わり

### C-3-1 入所時の情報収集

#### 学習目標

- 患者情報を本人・家族から収集する手順について習得する。
- 服薬状況と薬剤の知識を確認する手順を習得する。
- 家族の知識・思い(希望)と介護力を探る手順を習得する。

### C-3-2 入所中の薬学的介入

#### 学習目標

- 患者の薬物療法を安全に行うための薬学的介入を習得する。
- 患者情報を、処方・調剤に活用することを習得する。
- 患者に適したコミュニケーション術を習得する。
- 回想法や自分史等の患者の思い出を活用した面談方法について習得する。
- 在宅の方向性を考慮した関わりについて習得する。
- 患者の精神・身体機能を考慮した関わりについて習得する。
- 患者の体調チェックポイント(フィジカルアセスメント)について習得する。

#### 副作用モニタリング

- 高齢者の病態を把握した副作用モニタリングについて習得する。
- 医師および他スタッフから収集する副作用情報手順について習得する。

#### ポリファーマシー対策

- ポリファーマシーの背景や問題点について習得する。
- 不適切な処方と有害事象との関係について習得する。

- 減薬後の観察ポイントについて習得できる。

#### カンファレンスでの情報提供

- 医師・看護師等のスタッフに適切な情報提供について習得する。
- グループホームや軽費老人アパートなどの特徴について習得する。
- 入所時・療養・退所前カンファレンスのそれぞれの役割と活用について習得する。
- 薬剤の他職種協働評価について習得する。

#### 処方監査と薬剤の評価見直し

- 処方監査時に必要な患者情報について習得する。
- 処方薬を評価し見直すタイミングについて習得する。
- 有害事象の頻度の高い薬剤について習得する。
- 有害事象を減らすのに有効な介入について習得する。

### C-3-3 服薬能力評価と服薬支援

#### 学習目標

- 服薬能力に低下に関連する疾患について習得する。
- 服薬能力の評価とそれに応じた服薬支援について習得する。
- 服薬管理を考慮した支援ツールについて習得する。
- 介護者が管理しやすい与薬について習得する。

### C-3-4 退院時服薬指導と他施設への情報提供

#### 学習目標

- 患者の退所に際して、他施設へ適切な情報の提供について習得する。
- 薬剤管理サマリーやお薬手帳の活用について習得する。
- 患者・家族等に、薬剤の服用等に関する必要な指導について習得する。

### C-4 副作用の評価・報告と副作用被害救済制度

#### 学習目標

- 高齢者の加齢変化による副作用の発現について習得する。
- 副作用を発見した後の対応と評価、副作用情報の管理について習得する。
- 製薬会社や厚生労働省への副作用報告について習得する。
- 副作用被害救済制度について習得する。

### C-5 入所者・家族等からの相談への対応

#### 学習目標

- 薬剤管理指導に当たっては、常に信頼される言動について習得する。
- 医療人としての自覚をもって業務を遂行することを習得する。

- 患者・家族に不安を抱かせるような内容・表現について習得する。
- 個々の患者で理解力に応じた、理解しやすい用語・表現法について習得する。
- 患者の秘密を厳守し、プライバシーを侵害することのないよう患者対応の心得を習得する。
- 相談しやすい環境について習得する。

## D. 多職種連携・協働

### D-1 多職種の役割を知る

#### 学習目標

- 多職種連携において医師は薬剤師にどのような情報を求めているのか習得する。
- 多職種連携において看護師は薬剤師にどのような情報を求めているのか習得する。
- 多職種連携においてリハビリスタッフは薬剤師にどのような情報を求めているのか習得する。
- 多職種連携において栄養士は薬剤師にどのような情報を求めているのか習得する。
- 多職種連携において支援相談員は薬剤師にどのような情報を求めているのか習得する。
- 多職種連携において介護支援専門員は薬剤師にどのような情報を求めているのか習得する。
- リハビリスタッフにおいて、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の療法の違いを習得する。

### D-2 多職種協働による薬物治療管理

#### 学習目標

- 薬物治療管理に関して多職種に伝えるべき副作用を習得する。
- 薬物治療管理に関して多職種に伝えるべき薬剤の使用上の注意を習得する。
- 薬物治療管理に関して多職種より収集すべき情報を習得する。
- 薬物治療管理に関して多職種への情報伝達を習得する。
- 薬物治療管理に関して多職種が必要としている情報について習得する。
- リハビリスタッフと協同(協働)で評価すべき薬剤について習得する。

### D-3 地域における連携

#### 学習目標

- 地域連携での情報の共有ツールについて取得する。
- 退所前のカンファレンスにおいて薬剤師として伝える情報を習得する。
- 地域において地域ケア会議等が開催されていることを習得する。
- 各地域における地域包括支援センターの支援内容を理解する。
- 地域包括システムについて習得する。
- 地域薬剤師会からの情報収集について習得する。

#### 4. 参考資料・ガイドライン等

A～D の各項目に記載の内容を研修あるいは自己研鑽により習得するにあたり、参考となる資料およびガイドライン等について以下に記載しております。記載の資料、ガイドライン等に関しましては、あくまでも参考であり、すべてを網羅するものではないため、各項目に記載の内容に準じた最新の知見を活用されることを付記します。

- 厚生労働省：“我が国の医療保険について”，  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/iryuuohoken/iryuuohoken01/index.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuuohoken/iryuuohoken01/index.html) ，  
2019/2/15 参照。
- 厚生労働省：“平成 29 年 国民生活基礎調査の概況”，2018/07/20，  
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa17/dl/10.pdf> ，2019/2/15 参照。
- 厚生労働省：“介護老人保健施設”，2017/08/04，  
[https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu\\_Shakaihoshoutantou/0000174012.pdf](https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/0000174012.pdf) ，2019/2/15 参照。
- 厚生労働省：“介護療養病床・介護医療院のこれまでの経緯”，  
<https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/000337651.pdf> ，2019/2/15 参照。

厚生労働省：“平成 29 年版厚生労働白書”，

<https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/17/dl/all.pdf> ，2019/2/15 参照。

- 日本神経学会、「認知症疾患診療ガイドライン」作成委員会：“認知症疾患診療ガイドライン 2017”，初版，医学書院，東京，2017。
- 日本老年医学会、日本医療研究開発機構研究費・高齢者の薬物療法の安全性に関する研究班：“高齢者の安全な薬物療法ガイドライン 2015”，初版，メジカルビュー社，東京，2015。
- 上田 慶二、大塚 俊男、平井 俊策、本間 昭、日本医師会：“老年期痴呆診療マニュアル”長谷川和夫監修，第 2 版，南江堂，東京，1999。
- 中島 健二、天野 直二、下濱 俊、富本 秀和、三村 将：“認知症ハンドブック”，初版，医学書院，東京，2013。
- 日本老年医学会、「高齢者の生活習慣病管理ガイドライン」作成ワーキング：“高齢者高血圧診療ガイドライン 2017”，日本老年医学会雑誌，54 ，236-298(2017)
- 日本高血圧学会、日本高血圧学会高血圧治療ガイドライン作成委員会：“高血圧治療ガイドライン 2014 電子版”，第 4 版，[http://www.jpnh.jp/data/jsh2014/jsh2014v1\\_1.pdf](http://www.jpnh.jp/data/jsh2014/jsh2014v1_1.pdf) ，2019/02/9 参照。
- 日本脳卒中学会 脳卒中ガイドライン委員会：“脳卒中治療ガイドライン 2015[追補 2017 対応]”，第 2 版改訂，協和企画，東京，2017。
- 日本循環器学会：“循環器病ガイドラインシリーズ”，<http://www.j-circ.or.jp/guideline/>，2019/02/9 参照。
- 総務省統計局：“第六十八回日本統計年鑑 平成 31 年”，  
<http://www.stat.go.jp/data/nenkan/68nenkan/index.html> ，2019/03/15 参照。
- 松田 潔、特集 高齢者の救急医療：“高齢者の外傷”，日本老年医学会誌，48，326-331(2011)
- 日本老年歯科医学会、平成 27-29 年度厚生労働科学研究費補助金(長寿科学総合研究事業)「介護保険

施設における利用者の口腔・栄養管理の充実に関する調査研究」研究班：“要介護高齢者の口腔・栄養管理のガイドライン”，初版，

[http://www.gerodontology.jp/publishing/file/guideline/guideline\\_20181130.pdf](http://www.gerodontology.jp/publishing/file/guideline/guideline_20181130.pdf),2019/02/19 参照.

- 鳥羽 研二：“高齢者の転倒予防ガイドライン”，初版，メジカルビュー社，東京，2012.
- 消費者庁：“高齢者の事故の状況について-「人口動態調査」及び「救急搬送データ」調査票分析-”，2018/9/2，  
[https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer\\_safety/caution/caution\\_009/pdf/caution\\_009\\_180912\\_0002.pdf](https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_safety/caution/caution_009/pdf/caution_009_180912_0002.pdf) ，2019/02/9 参照.
- 日本骨粗鬆症学会、骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン作成委員会：“骨粗鬆症予防と治療ガイドライン 2015 年版”，2015/10/30，[http://www.josteo.com/ja/guideline/doc/15\\_1.pdf](http://www.josteo.com/ja/guideline/doc/15_1.pdf),2019/02/19 参照.
- 日本リウマチ学会：“関節リウマチ診療ガイドライン 2014”，メディカルレビュー社，東京，2014.
- 日本整形外科学会、日本整形外科学会の出版物：“医学生・医師向け出版物”  
<https://www.joa.or.jp/edu/publication/index.html> ，2019/02/19 参照.
- 日本緩和医療学会 緩和医療ガイドライン作成委員会：“がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン(2014 年版)”，第 5 刷改訂版，金原出版，東京，2014.
- 日本糖尿病学会：“糖尿病診療ガイドライン 2016”，第 5 版，南江堂，東京，2016.
- 日本老年医学会・日本糖尿病学会：“高齢者糖尿病診療ガイドライン 2017”，初版，南江堂，東京，2017.
- 日本糖尿病学会・日本老年医学会：“高齢者糖尿病治療ガイド 2018”，初版，文光堂，東京，2018.
- 日本糖尿病療養指導士認定機構、“糖尿病療養指導ガイドブック 2018”，メディカルレビュー社，東京，2018.
- 鈴木 洋史，大野 能之，樋坂 章博：“これからの薬物相互作用マネジメント”，初版，じほう，東京，2014.
- 日本消化器病学会：“胆石症診療ガイドライン 2016”，第 2 版，南江堂，東京，2016.
- 日本消化器病学会：“消化性潰瘍診療ガイドライン 2015”，第 2 版，南江堂，東京，2015.
- 日本消化器病学会：“肝硬変診療ガイドライン 2015”，第 2 版，南江堂，東京，2015.
- 日本老年医学会：“健康長寿診療ハンドブック”，初版，メジカルビュー社，東京，2011.
- 日本呼吸器学会：“成人肺炎診療ガイドライン 2017”，初版，日本呼吸器学会，東京，2017.
- 日本老年薬学会：“老年薬学ハンドブック”，初版，メディカルレビュー社，東京，2018.
- 日本消化器病学会関連研究会慢性便秘の診断・治療研究会：“慢性便秘症診療ガイドライン 2017”，初版，南江堂，東京，2017.
- 日本褥瘡学会：“褥瘡予防・管理ガイドライン(第4版)”，第 4 版，日本褥瘡学会，東京，2015.
- 睡眠薬の適正使用及び減量・中止のための診療ガイドラインに関する研究班および日本睡眠学会・睡眠薬使用ガイドライン作成ワーキンググループ：“睡眠薬の適正な使用と休薬のための診療ガイドライン”，2013/6/13，<http://www.jssr.jp/data/pdf/suiminyaku-guideline.pdf> ，2019/3/12参照.
- 厚生労働省「身体拘束ゼロ作戦推進会議」：“身体拘束ゼロへの手引き 高齢者ケアに関わるすべての人に”，改訂版，厚生労働省，2015.
- 日本看護倫理学会 臨床倫理ガイドライン検討委員会：“看護倫理ガイドライン”，初版，看護の科学社，東京，2018.
- 日本静脈経腸栄養学会：“静脈経腸栄養ガイドライン第 3 版”，第 3 版，照林社，東京，2013.
- 藤島 一郎，倉田 なおみ：“内服薬 経管投与ハンドブック”，第 3 版，じほう，東京，2015.

- 篠原 信雄：“泌尿器科診療に役立つガイドライン・ナビ”，MC メディカ，東京，2017.
- 高久久磨，堀正二，菅野健太郎，門脇孝，乾賢一，林昌洋：“治療薬ハンドブック 2019 薬剤選択と処方のポイント”，初版，じほう，東京，2019.
- 川口崇，岸田直樹：“3 ステップで推論する副作用のみかた・考えかた”，初版，じほう，東京，2018.
- 秋下雅弘：“高齢者のための薬の使い方 ストップとスタート”，初版，ばーそん書房，東京，2013.
- 今井博久，徳田安春：“解消！ポリファーマシー 上手なくすりの減らし方”，初版，じほう，東京，2016.
- 木村聡，三浦雅一：“薬の影響を考える 臨床検査値ハンドブック”，第3版，じほう，東京，2017.
- 秋澤忠男，平田純生，日本腎臓病薬物療法学会：“腎機能別薬剤投与量 POCKET BOOK”，第2版，じほう，東京，2018.
- 三菱総合研究所人間・生活研究本部、平成24年度厚生労働省老人保健事業推進費等補助金、介護施設の重度化に対応したケアのあり方に関する研究事業：“特別養護老人ホームにおける介護事故予防ガイドライン”，初版，三菱総合研究所，東京，2013.
- 全国老人保健施設協会：“介護老人保健施設安全推進マニュアル”，第2版，全老健共済会，東京，2010.
- 日本老年医学会：“高齢者ケアの意思決定プロセスに関するガイドライン 2012 年版-人工的水分・栄養補給の導入を中心として-”，医学と看護者，2012.
- 日本静脈経腸栄養学会：“静脈経腸栄養ガイドライン”，第3版，照林社，東京，2014.
- 日本病院薬剤師会編：消毒薬の使用指針，第3版，薬事日報社，東京，1999.
- アメリカ疾病管理予防センター (Centers for Disease Control and Prevention: CDC) :「医療施設における消毒と滅菌のためのガイドライン 2008」  
<https://www.cdc.gov/infectioncontrol/guidelines/disinfection/index.html>，2019/02/26 参照.
- アメリカ疾病管理予防センター (Centers for Disease Control and Prevention: CDC) :「隔離予防策のためのガイドライン:医療現場における感染性物質の伝播予防 2007」  
<https://www.cdc.gov/infectioncontrol/guidelines/isolation/index.htm>，2019/02/26 参照.
- 厚生労働省：高齢者介護施設における感染対策マニュアル 2013、  
<https://www.mhlw.go.jp/topics/kaigo/osirase/tp0628-1/>，2019/02/26 参照.
- アメリカ疾病管理予防センター (Centers for Disease Control and Prevention: CDC) :“カテーテル関連尿路感染 (CAUTI) の予防のための CDC ガイドライン (2009)”，  
<https://www.cdc.gov/infectioncontrol/guidelines/cauti/index.html>，2019/02/26 参照.
- アメリカ疾病管理予防センター (Centers for Disease Control and Prevention: CDC) :“結核の医療現場における伝播予防のためのガイドライン(2005)” <http://www.cdc.gov/mmwr/PDF/rr/rr5417.pdf>，2019/02/26 参照.
- 日本環境感染学会，ワクチンに関するガイドライン改訂委員会：“医療関係者のためのワクチンガイドライン 2014”，第2版，環境感染誌，29，Suppl. III，2014.
- 日本蘇生協議会：“JRC 蘇生ガイドライン 2015”，初版，医学書院，東京，2015.
- 日本医師会：“終末期医療アドバンス・ケア・プランニング (ACP) から考える 2018”，  
<https://www.med.or.jp/nichiionline/article/006650.html>，2019/2/27 参照.
- 厚生労働省：“人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン 2018”，  
<https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000197665.html>，2019/2/27 参照.
- 慢性疼痛治療ガイドライン作成ワーキンググループ：“慢性疼痛治療ガイドライン 2018”，初版，真興交易，

東京, 2018.

- 平成 26 年度 老人保健事業推進費等補助金(老人保健健康増進等事業分)事業 特別養護老人ホームにおける看取りの推進と医療連携のあり方調査研究事業:“看取り介護指針・説明支援ツール【平成 27 年度介護報酬改定対応版】”, 初版, 公益社団法人全国老人福祉施設協議会, 東京, 2015.
- 田中宏明、金子雅明、佐野雅隆:“医療安全と業務改善を成功させる 病院の文書管理 実践マニュアル” 矢野真、棟近雅彦監修, MC メディカ出版, 東京, 2017.
- 井門敬子:“ハイリスク薬チェックシート”, 第 3 版, じほう, 東京, 2016.
- 医薬ジャーナル社編集部:“薬剤識別コード事典平成 29 年改訂版”, 改訂 40 版, 医薬ジャーナル社, 東京, 2018.
- 日本医薬情報センター:“JAPIC「医療用医薬品集」薬剤識別コード一覧 2019”, 日本医薬情報センター, 東京, 2019.
- 医薬品医療機器総合機構PMDA:“医薬品副作用被害救済制度”, [http://www.pmda.go.jp/kenkouhigai\\_camp/index.html](http://www.pmda.go.jp/kenkouhigai_camp/index.html) ,2019/03/12 参照.
- 秋下雅弘、長瀬 亜岐:“高齢者の飲んでいる薬がわかる本”, 医学書院, 東京, 2018.
- 大澤智恵子:“介護現場で活かすフィジカルアセスメント- 利用者の生命と生活を支える知識と技術-”, 中央法規出版, 東京, 2016.
- 秋下雅弘、倉田なおみ:“高齢者の服薬支援 総合力を活かす新知識と実践”, 講談社, 東京, 2017.
- 日経メディカル:“カンファレンスで学ぶ 臨床推論の技術”, 日経メディカル, 東京, 2015.
- 日本公定書協会:“医薬品副作用被害救済制度”, じほう, 東京, 2010.
- 井手口直子:“薬剤師のためのコミュニケーションスキルアップ”, 講談社, 東京, 2010.
- 日総研グループ:“地域連携 入退院と在宅支援”, 日総研出版, 東京, 2017.
- 伊藤みほ子:“病院看護職の介護保険入門 地域包括ケアの共通言語を身につける”, 看護臨時増刊号, 68, 006-010(2016).